

✈️ 航空宇宙の取り組み2008 ✈️

■大樹町小中学校教育研究大会講演

大樹町小中学校教育研究大会が11月20日大樹中学校（我妻薫校長）で開催され、午前の研究授業に続き午後講演会を行いました。

講演は永田晴紀北大大学院教授による「道産ロケットCAMUI（カムイ）の今と未来」

小型ハイブリッドロケット「カムイ」の産みの親である永田教授は安全・安価な小型ロケットで宇宙を身近なものにし、新しい産業を興せたいと語り、これまで大樹町で行った打上げ実験の様子などを紹介しました。



■あつまれ！大樹っ子（タイキッズ）

大樹町教育委員会主催「あつまれ！大樹っ子（タイキッズ）」が10月18日（土）午前9時30分から多目的航空公園で開催され町内の小学生32名が参加しました。

大樹っ子は年8回開催し、陶芸体験や科学実験などいろいろなメニューに取り組んでおり、今回は同公園の施設見学に続き帯広紙飛行機を飛ばす会木川博史会長の指導で、紙飛行機作りに挑戦。

30分ほどで完成し、広い芝生に移動、快晴微風の最適なコンディションの中、カタパルトと呼ばれるゴムを動力に思い思いに飛ばしました。

慣れたところで3回飛ばして滞空時間の合計で競技し、上位3位に記念品を贈呈、6秒以上飛ぶものもあり盛り上がりました。

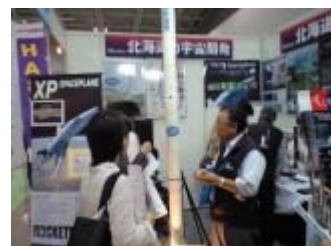


■2008年国際航空宇宙展出展

4年に1度開催される国際航空宇宙展が、10月1日から5日までパシフィコ横浜で開催され、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）と十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会とともに大樹町も共同出展しました。

期間中4万人が訪れ、JAXA、メーカー、防衛省など約500機関の出展に多いに賑わっていました。

私達のブースにはCAMUI90ロケットの実機を中心に大樹町多目的航空公園のパネル、宇宙旅行を目指すロケットプレーンの模型などを展示、CAMUIロケットはかなり知られていて関心が高く、ひっきりなしに訪問者があり



ました。

東京都、新潟市、栃木県など自治体の参加も多く、航空宇宙産業の裾野が広がっていると感じました。

また、国産旅客機MRJ、次期固定翼哨戒機・輸送機の開発、国内メーカーのビジネスジェット実物大模型、など話題の多い展示会となりました。



■開町80周年記念講演会

10月1日は大樹町の開町80周年記念日にあたり、生涯学習センターオークホールで記念式典が挙行されました。式典に引き続き記念講演会が行われ「大樹町における大気球実験」と題し、JAXA宇宙科学研究本部吉田哲也大気球観測室長が、今年大樹航空宇宙実験場で行われた大気球実験の映像を交え、大気球実験で宇宙の謎を探っていること、ジェット気流と大気球実験の関係など150人の出席者に講演し、わが町で行われている最先端の実験研究に参加者は興味深く聞き入っていました。



■「ふるさとの人」講話で宇宙の話

大樹高校（佐藤安弘校長）は、地域に関連する方に、いろいろな分野のお話を聞く「ふるさとの人」講話を毎年開催しています。

9月1日、今年から町多目的航空公園「大樹航空宇宙実験場」で大気球実験を行っているJAXA（宇宙航空研究開発機構）から講師を招き、町が取り組む「宇宙のまちづくり」に関連し講話をしていただき、全校生徒130人と一般会わせて約160名が聴講しました。

講師は、JAXA宇宙科学研究本部対外協力室阪本成一教授。「かぐや」が見た月と題して、月周回衛星「かぐや」が撮影した高画質な月の映像を交えて宇宙探査、宇宙開発の現状と未来についてお話しいただきました。

阪本さんは、近い将来人類が月に移住することも可能になるが、地球に住めなくなって月に行くのは間違い、地球を人間が住めない星にしてしまったら月に住むことなどありえない。と、かけがえのない地球を守って行こうとメッセージをおくりました。

講演終了後、生徒会（堤綾香会長）役員、宇宙から帰還した同校の旗と記念撮影しました。



■宇宙を旅した大樹高校の旗返還

昨年秋に大樹高校生徒会が製作した旗はOFK（NASA公式飛行記念品）として土井隆雄JAXA宇宙飛行士により、本年3月スペースシャトルエンデバーで宇宙空間を飛行、STS-123ミッション終了後地球に帰還しました。

このたび、土井宇宙飛行士の来日にあたり、堤綾香大樹高校生徒会長にJAXA東京事務所



で直接手渡されました。

土井宇宙飛行士から旗の他、NASAの飛行証明書、今回のミッション記念楯が渡され、堤会長から宇宙へ行った感想、お風呂はどうするのか、宇宙食はどんな感じか、「きぼう」が設置されどうなるか、次は何を目指すのかなどの質問に丁寧に応えてくださいました。

懇談のあと今回のミッションのビデオ（7分）を上映、無重力環境でブーメランを飛ばし、見事に戻るところなどを見せていただき終了しました。

堤会長は「土井さんは優しくてカッコいい、緊張したけど楽しかった。」と話していました。

旗や楯は大樹高校に飾る予定です。



■2008サイエンスパークに出展しました

2008サイエンスパークが2008年8月5日（火）札幌市中央区 サッポロファクトリーで開催されました。独立行政法人科学技術振興機構と北海道の主催で今回が4回目、HASTIC・十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会・大樹町で初めて共同出展しました。

全長4.8mのCAMUI250Sロケットの実物や1.5m大気球の模型などを展示、スペースシャトル搭乗時のフライトスーツを試着してCAMUIとの記念撮影が人気でした。



■第11回ペットボトルコンテストIN大樹開催

2008年8月3日（日）歴舟川清流まつり会場第11回ペットボトルロケットコンテストIN大樹が開催されました。

開会式の始まる12時半まで強い雨が断続的に降っていましたが、競技開始頃から雨も止み、絶好の大会日和になりました。

自由競技では世界記録にあと数十センチにせまる250mの大記録も飛び出し、大いに盛りあがりました。





■北海道洞爺湖サミット記念2008環境総合 展出展

2008年7月に開催される北海道洞爺湖サミットを記念して「2008環境総合展」が、札幌ドームを会場に6月19日～21日まで開催され、大樹町もHASTIC・十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会とともに「北海道の宇宙開発・環境への貢献」と題して出展しました。クリーン燃焼のCAMUIロケット、地球観測に用いる北海道衛星、高空の観測にも使用される大気球実験などを紹介しました。目標を大きく上回る8万4千人の来場があり、私たちのブースも沢山の来場者が立ち寄ってくださいました。



■第26回ISTIS浜松国際宇宙展示会出 展

第26回宇宙技術および科学の国際シンポジウムが静岡県浜松市で開催され、国際宇宙展示会(6/1～6/8)に出展しました。HASTIC・十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会との共同出展で、CAMUIロケット(実物)や大樹町多目的航空公園のパネルなど北海道の宇宙への取組みを紹介しました。



■大樹町／宇宙航空研究開発機構 連携協 力協定調印式

2008年5月26日大樹町とJAXAとの間で、これまで以上に連携協力を強めていこうとする協定を締結する式典が大樹町多目的航空公園内飛行船格納庫で開催されました。

参列者関係者約200名が見守る中、伏見悦夫大樹町長と立川敬二JAXA理事長が協定書に署名、硬い握手を交わしました。



協定では地域の発展、宇宙及び航空科学技術の発展、宇宙航空に関する教育活動の推進と支援、大樹町とJAXAの連携協力拠点「大樹航空宇宙実験場」を置くなどとしています。

調印式のあと町内の小学生100人による「大気球開始式」、施設見学、懇親会が行われました。



■大樹町／宇宙航空研究開発機構 連携協力協定締結記念講演会

2008年5月26日開催される大樹町／JAXA連携協力協定締結協定調印式を記念して、5月25日生涯学習センターオークホールで講演会を開催しました。講師は今月から大気球実験を行う吉田哲也JAXA宇宙科学研究本部大気球実験室長と、これまで数々の飛行技術関連実験を行ってきた柳原正明JAXA開発研究本部飛行技術研究センター長。

吉田室長は「宇宙の歴史をひもとく気球実験」と題し、大樹町で行う気球実験を通じて宇宙の謎を探求していくこと、柳原センター長は「大樹町におけるJAXA飛行実験」と題し、1995年航空公園オープン当初、滑走路が転圧で苦労したこと、宇宙往還機や飛行船実験を数多く行ってきたことを紹介しました。

講演の後、会場からの質問に応じてくださいました。

